

## 雍也第六

子曰、中庸之徳也、其至矣乎。  
民鮮久矣。

し い ちゆうよう とく た そ いた  
子曰わく、中庸の徳為るや、其れ至れるかな。  
たみすくな ひき  
民鮮きこと久し。

(6-149)

<子曰わく、中庸の徳為るや、其れ至れるかな。民鮮きこと久し>

Q : 「子曰わく、中庸の徳為るや、其れ至れるかな。民鮮きこと久し」とは何ですか。

A : (1) 「孔子は言った。中庸(常に、公平で、過不足や、上下左右のかたよりのない)最高の徳性が、人々の心の中から、無くなってから久しくなった」の意。

(2) 「過ぎることもなく、及ばぬこともなく、しかも偏<sup>かたよ</sup>らないで、終始変わらないところの中庸ということの、人間の道徳としての価値は最上至極のものである。然るにすでに久しい間にわたって、この徳を行える人が少ないことは、まことに嘆かわしいことだなあ」の意。

(3) 「中庸」の「中」とは、過ぎたこともなく、及ばぬこともなく、どちらにもかたよらぬ、中正を得たこと。

・「庸」とは常で、常恒の意。いつまでも変わらないこと。

・常識的にいえば、穏健中正で、永久に変わらない道徳のことを中庸という。

2011年6月20日林明夫記